

令和8年度

好学通信 (シラバス)

3年生 (62期生)

三綱領・五科目

敬愛 好学 自主

志操は高く品格ある青年生徒になり
易らにたす学道に専心せよ
共励切磋和して同するたがひ
自主自律 責任と定意せよ
積極敢活自ら運命を開拓せよ



鹿児島県立鹿児島中央高等学校

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	論理国語	2	共通	一斉	3	論理国語 (筑摩書房)	意味から学ぶ頻出漢字3000(第一学習社)

目標	1. 社会生活に必要な知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深める。 2. 共感する力や想像力を伸ばし、先人の考え方に触れて自らの考えを広げたり深めたりする。 3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を育てる。
----	---

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月～6月	① 物語と歴史のあいだ(野家啓一)	具体的な論拠や明晰な論理構成を用いて、抽象的なテーマをわかりやすく伝える工夫を身に付ける。	①前期中間考查
		虚ろなまなざし(岡真理)	多様な価値観を論じた文章に触れて、主張がどのように展開されているか吟味し、新しい思考の枠組みを作り出す方法を学ぶ。	
	6月～8月	② 思考の誕生(蓮實重彦)	自分とは異なる他者の異質な思考にも耳を傾けることで、人と社会を捉えようとする自分のことばを改めて吟味し、他者へとつながることばの発信について考える。	②前期末考查
		日本文化私観(坂口安吾)	筆者の主張する独自の見解を読み取るとともに、情報を重要度や抽象度によって階層化し整理する方法について理解を深める。	
	9月～11月	③ 過敏性と希少性(佐伯啓思)	文章で展開される主張やその論拠を整理し、記号によってつくられた複雑に分節化された世界を読み解く力を高める。	③卒業考查
		記憶の満天(西谷修)	ものごとの根本にさかのぼって考えようとする評論文の書き方に学びながら、自分の考えを筋道立てて展開させていく構成の重要性を理解する。	
	11月～12月	④ 共通テスト対策演習	・問題演習を通して抽象度の高い難解な文章の読解力を高める。	
1月～	共通テスト対策演習	・問題演習を通して抽象度の高い難解な文章の読解力を高める。		
	二次試験対策演習	・問題演習を通して抽象度の高い難解な文章の読解力を高める。		

定期考查	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。
	予定範囲	前期中間 上記「学習内容」の①の範囲 前期末 上記「学習内容」の②の範囲 卒業考查 上記「学習内容」の③の範囲

実力考查	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。
	4月	休日課題の問題集+漢字+実力問題
	10月	休日課題の問題集+漢字+古文単語+実力問題

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価基準	定期考查 小テスト	定期考查・単元テスト 小テスト 国語課題	ペアワークなどの取組 宿題(問題集・作文等) 小テスト・リフレクションシート
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する

学習の手引き	(1)予習…必ず語句の意味調べをする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書の丸写しではなく、主体的な読み書きの姿勢を持つこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間を確保して、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりと臨むこと。終了後の復習も時間を確保すること。
--------	---

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	文学国語	2	文系	一斉	3	文学国語 (数研出版)	意味から学ぶ頻出漢字3000(第一学習社)

目標	1. 社会生活に必要な知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深める。 2. 共感する力や想像力を伸ばし、創造的思考や伝え合う力を高める。 3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を育てる。						
学習計画	学習時期	単元名			学習のねらい		考查等
	4月～6月	①	赤い繭(安部公房)	・独特な文体や非現実的な展開のおもしろさを味わう。 ・寓話的な作品を読み、批評性や象徴性をとらえる。		①前期中間考查	
			クリーム(村上春樹)	・起承転結のない独特な構成の作品を読み、おもしろさを味わう。 ・抽象的な表現から、登場人物相互の関係や心境の変化をとらえる。			
		源氏物語	・三つの現代語訳の表現上の違いを整理する。 ・各現代語訳の表現上の特徴から、その背景にある訳者の意図をとらえる。				
	6月～8月	②	父帰る(菊池寛)	・戯曲の表現手法を知り、作品の背景を視野に入れて読む。 ・ト書きや台詞によって表現された登場人物の複雑な心情を読み解く。			②前期末考查
			物語のおわり(湊かなえ)	・登場人物の置かれた状況や立場を整理して読む。 ・構成・展開・内容を的確に捉えた後、それらを小説の創作活動に活かす。			
	9月～11月	③	檸檬(梶井基次郎)	・登場人物の感覚から事物の多様なとらえ方を知る。 ・文体の特徴に着目し、その効果について考える。			
掟の門前(フランツ・カフカ)			・日本の現代作家に影響を与えた海外の小説を読み、抽象性を読み味わう。 ・視覚化される寓話的な作品世界について、描写の仕方をとらえる。				
11月～	④	共通テスト対策演習	・問題演習を通して抽象度の高い難解な文章の読解力を身に付ける。				
1月～	⑤	二次試験対策演習	・問題演習を通して抽象度の高い難解な文章の読解力を身に付け、表現したいことを明確に表現する。				
定期考查	出題方針	・授業内容の習得状況を確認する。 ・授業や休日課題等への取組の成果が反映されるようにする。					
	予定範囲	前期中間	上記「学習内容」の①の範囲				
実力考查	出題方針	前期末	上記「学習内容」の②の範囲				
		卒業	上記「学習内容」の③の範囲				
実力考查	出題方針	・大学等の入試に対応できる実力を養成する。 ・授業や休日課題等への取組の成果が反映されるようにする。					
		予定範囲	4月	休日課題の問題集＋漢字＋実力問題			
実力考查	予定範囲	10月	休日課題の問題集＋漢字＋古文単語＋実力問題				
		観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
内容	国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけている。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価基準	定期考查	定期考查・単元テスト		ペアワークなどの取組			
	小テスト	小テスト		宿題(問題集・作文等)			
		宿題		個人・グループでの発表			
評価基準	A:十分満足できる	A:十分満足できる		A:十分満足できる			
	B:概ね満足できる	B:概ね満足できる		B:概ね満足できる			
	C:努力を要する	C:努力を要する		C:努力を要する			
学習の手引き	(1)予習…必ず語句の意味調べをする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書の丸写しではなく、主体的な読み書きの姿勢を持つこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間をとって、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりと臨むこと。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行者)	副教材・発展学習教材(発行者)
国語	古典探究	文2 理2	文・理	一斉	3	『精選古典探究 古文編・漢文編』 (東京書籍)	見て覚える 読んで解ける 古文単語330 (文英堂) 基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版(桐原書店)
目標	1. 社会生活に必要な知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深める。 2. 共感する力や想像力を伸ばし、先人の考え方に触れて自らの考えを広げたり深めたりする。 3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を育てる。						
学習計画	学習時期	単元名	学習目標	考查等			
	4月～6月	① (古文)説話 『宇治拾遺物語』 「伴大納言、応天門を焼くこと」	・説話を読み、作品の内容や特色について理解を深める。 ・行動、言葉、心情に注目し、表現上の特徴や効果を理解する。	①前期中間考查 ②前期末考查 10月実力考查 ③卒業考查			
			(漢文)史話 『三国志』「赤壁之戦」		・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考える。 ・史話を読み、作品を踏まえた語彙が日常に与えた影響についてまとめる。		
	6月～8月	② (古文)歴史物語 『大鏡』 「道長、伊周の競射」「三船の才」	・歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。				
			(漢文)思想 「直躬」(『論語』『韓非子』)		・諸子百家の思想の違いを知り、ものの見方・考え方を豊かにする。		
	8月～10月	③ (古文)作り物語 『源氏物語』「宇治の姫君たち」	・作り物語を多面的・多角的な視点から読み、考えを深める。 ・設定などに着目しながら登場人物の心情を捉え、作品についての理解を深める。				
10月～12月	④ (漢文)史記 『史記』荆軻伝「風蕭蕭兮易水寒」 「図窮而七首見」	・『史記』を読み、歴史のおもしろさを味わう。 ・登場人物の生き方を通して、人間のあり方について考察する。					
1月～		⑤ 共通テスト対策演習	・問題演習を通して読解力を高め、古典の面白さを味わう。				
定期考查	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。					
	予定範囲	前期中間	上記「学習内容」の①の範囲(休日課題の問題集、古典文法)				
実力考查	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。					
	予定範囲	4月	休日課題の問題集、古典文法 + 実力問題				
観点別評価	内容	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけており、言語文化に親しみ、理解している。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
評価基準	定期考查・実力考查 宿題(問題集)	定期考查・実力考查 授業におけるペアワーク等 宿題(問題集)		授業におけるペアワーク等 宿題(問題集)、ノート 小テスト・リフレクションシート			
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する			
学習の手引き	(1) 予習…必ず語句の意味調べをする。 (2) 授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書や全訳の丸写しではなく、主体的な読み書きの姿勢をもつこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3) 復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間をとって、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4) 試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりとって臨むこと。終了後の復習にも時間を確保すること。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
地歴	地理探究	文系4 理系3	選択	一斉	3	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE(帝国書院) サクシード地理(啓隆社) 新地理研究ノート(啓隆社) 地理10分間テスト(山川出版社)等

目標	<p>・現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。</p> <p>・地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。地球・地形の成り立ちや世界の気候などの自然環境そのものと、農業・工業など自然環境と人間生活との関係を把握し、さらに、具体的に様々な地域や国を取り上げて、地誌的にそれらを考察していく。</p> <p>・自分自身の住む地域や世界における諸課題やその解決策について、主体的かつ共働的に探究していく態度を養う。</p>						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月～8月	第1部 現代世界の系統地理的考察 第2章 資源と産業	・現代の工業に関わる諸事象をもとに、関連する問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解させる。			4月実力	
		第3章 交通・通信と観光、貿易	・交通、通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現させる。				
	9月～11月	第4章 人口、村落・都市	・人口、都市・村落などに関わる諸事象について、規則性、傾向性や、関連する課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現させる。			前期中間	
		第5章 生活文化、民族・宗教	・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解させる。				
12月～2月	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分	・世界や世界の諸地域に関する主題図や資料をもとに、地域区分する方法や地域概念、意義などについて理解させる。			前期期末		
	第2章 現代世界の諸地域	・地域区分した現代世界の諸地域をもとに、地域的特色や地球的課題などについて理解させるとともに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解させる。					
センター試験対策および大学入試特別対策授業	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究	<p>・これからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目し、主題を設定し、諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現させるとともに、持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究させる。</p> <p>・大学入試にむけて、入試問題の演習に取り組む。</p>			10月実力 卒業考查 1月実力		
定期考查	出題方針	<p>・授業、教科書、その他課題などから出題する。</p> <p>・100満点 50分間の試験</p>					
	予定範囲	前期中間	第1部 第2章 資源と産業 第3章 交通・通信と観光、貿易 第4章 人口、村落・都市 第5章 生活文化、民族・宗教				
		前期期末	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域				
卒業考查	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究						
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	地理に関わる諸事象に関して、地域の特質や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		地理に関わる事象について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を獲得している。		地理にかかわる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題やその解決策について、主体的に探究しようとする態度で取り組んでいる。		
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み		定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み		主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業におけるグループ活動や各種課題の取り組み		
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		
学習の手引き	<p>① 自宅では…【予習】教科書を読んで、学習内容を確認。【復習】オリジナルの学習ノートを作成し、学習内容を自分なりにまとめてみる。</p> <p>② 授業では…他の生徒と意見を出し合ったり、要点をまとめ、それを発表したりする活動を通じて理解を深める。</p> <p>③ 日常的に…ニュースを見たり、新聞を読んだりする習慣を身につけて、自分の身の回りの出来事などに関心や疑問を持つようになる。</p>						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行人)	副教材・発展学習教材(発行人)
地理 歴史	日本史 探究	文系4 理系3	文理 選択	一斉	3	詳説 日本史 (山川出版社)	新詳 日本史 (浜島書店) 詳説日本史 授業用整理ノート(山川出版社) 新日本史研究ノート(啓隆社) 日本史重要語句 Check List(啓隆社)

目標	社会的事象の歴史の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	第9章 3 幕政の安定			①17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ②藩制における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。		4月実力考查
	5月	4 経済の発展			①幕藩体制の安定期の農業・手工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を考察する。 ②全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。		
		5 元禄文化			①経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ②学問の特色を理解し、その発展が他の学問に与えた影響を考察する。		
	6月	第10章 1 幕政の改革			①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や藩がとった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。		前期中間考查
		2 宝暦・天明期の文化			①江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸術・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ②幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。		
		3 幕府の衰退と近代への道			①欧米諸國のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対応を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ②近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。		
		4 化政文化			①化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流に着目して考察する。 ②都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。		
	7月	第11章 1 開国と幕末の動乱			①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関連させて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。		前期中間考查
		2 幕府の滅亡と新政府の発足			①幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一角に至るまでの経過を理解する。 ②近世から近代への変化について考察し、時代を透視する問いを表現する。		
	8月	第12章 1 明治維新と富国強兵			①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。		前期期末考查
		2 立憲国家の成立			①政府の強力な中央集権体制への志向のもと、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ②大日本帝国憲法の性格について具体的に多角的に理解する。		
		第13章 1 日清・日露戦争と国際関係			①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進んだ過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。		
		2 第一次世界大戦と日本			①第一次世界大戦前後の政治的動向および外交政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況等を踏まえて理解する。 ②第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。		
	3 ワシントン体制			①ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ②民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普通運動など政党政治の発展から大衆政治による党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。			
9月	第14章 1 近代産業の発展			①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家的基盤が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。		前期期末考查	
	2 近代文化の発達			①伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもった近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもつて考察する。 ②義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。			
	3 市民生活の変容と大衆文化			①労働者や都市中間階級の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ②大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。			
	第15章 1 恐慌の時代			①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動向について、国内・国外の経済状況と対応に着目して理解する。 ②社会主義運動の勃興や国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。			
	2 軍部の台頭			①日本の外交政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ②恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五一五事件から二二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。			
	3 第二次世界大戦			①日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や継続制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ②第二次世界大戦について、国家間の相違や戦力の特色を踏まえて、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に求める重要性を認識する。			
10月	第16章 1 占領と改革			①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。		10月実力考查	
	2 冷戦の開始と講和			①東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考察する。 ②連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な面の立場から考察する。			
11月	第17章 1 55年体制			①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。		10月実力考查	
	2 経済復興から高度経済成長へ			①朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ②消費革命による社会の変容と、経済成長がもたらしたはずみである社会問題について理解する。			
12月	第18章 1 経済大国への道			①ドルショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を認識する。 ②高度成長が終結し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。		卒業考查	
	2 冷戦の終結と日本社会の変容			①冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 ②科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。			
12～1月 1～2月	共通テスト対策 私立・個別学力試験対策						
定期考查	出題方針	授業、教科書、その他課題などから出題する。 ・100満点 50分間の試験					
	予定範囲	前期中間 第9章 3 幕政の安定～第10章 4 化政文化 前期末 第11章 1 開国と幕末の動乱～第14章 3 市民生活の変容と大衆文化 卒業考查 第15章 1 恐慌の時代～第18章 2 冷戦の終結と日本社会の変容					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる。		我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握・解決を視野に入れて構想したり、考察、検討したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする。		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、国家および社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする。		
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		定期考查における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		
学習の手引き	(1)学習…教科書を熟読し、「詳説日本史 授業用整理ノート」の穴埋めを完成させる。 (2)授業…授業中は集中して説明事項の内容を理解し、生徒同士で内容を説明したり、まとめたりする能力を身に付ける。 (3)復習…「新日本史研究ノート」や「日本史重要語句 Check List」を活用して、知識の整理と定着を図る。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
地歴	世界史探究	文系4 理系3	文理選択	一斉	3	新詳世界史探究(帝国書院)	浜島書店「NEW・STAGE世界史詳覧」 山川出版社「世界史用語集」 浜島書店「総合マスター世界史」 啓隆社「世界史重要語句Check List」

目標	・世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。 ・文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培う。 ・国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月	3部2章 ③スペインとポルトガルの進出 ④イスラーム世界の成熟	③スペインとポルトガルの海外進出がもたらした変化について理解する。 ④モンゴル帝国後の西アジアや南アジア地域の統治政策を理解する。	前期中間考查
	5月	3章 ①ルネサンスと宗教改革 ②主権国家の形成と「17世紀の危機」	①ルネサンス運動がヨーロッパに与えた影響を理解し、表現できる。 ②ヨーロッパの主権国家体制の特徴と課題を理解し、表現できる。	
	6月	③東欧諸国の台頭とヨーロッパ文化の成熟 ④イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易	③ヨーロッパの思想や文化が政治や経済に与えた影響を理解する ④イギリスがヨーロッパ諸国間の抗争に勝利した理由を理解する。	
	7月	4部1章 ①世界で最初の工業化 ②アメリカの独立	①産業革命が当時や現代の世界に与えた影響を理解し、表現できる。 ②アメリカの独立革命が成功した理由を表現し、与えた影響を理解する。	前期末考查
	8月	③フランス革命と国民国家の誕生	③フランス革命が当時の世界や現代に与えた影響を理解し、表現できる。	
	9月	④ラテンアメリカへの革命の波及 2章 ①イギリスの覇権と自由主義 ②ヨーロッパに広がる国民国家 ③アメリカ合衆国の拡大と国家統合	④ラテンアメリカが独立後に抱えた課題について理解し、表現できる。 ①イギリスの自由主義政策が社会に与えた影響を理解し、表現できる。 ②ヨーロッパ大陸での国民国家統合の性質を理解し、表現できる。 ③アメリカの国家統合がアメリカ社会に与えた影響を理解している。	10月実力考查
	10月	3章 ①イスラーム王朝の解体と変容 ②南・東南アジアの変容 ③東アジア諸国の模索と変容	①欧米諸国の進出に起因する、イスラーム世界、南アジア・東アジア世界の変化を理解する。欧米諸国の進出に起因するイスラーム世界、南アジア・東アジア世界の変化について考察し、表現できる。	
	11月	4章 ①帝国主義と世界分割競争 ②アジア知識人による体制改革の試み 5章 ①第一次世界大戦と社会主義革命 ②第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開 ③大衆社会の到来とファシズムの出現 ④第二次世界大戦とその惨禍	①帝国主義が世界各地に与えた変化について理解する。 ②帝国主義に対するアジア各国の対応と近代化を理解し、表現できる。 ①第一次世界大戦の原因ともたらした変化を理解し、表現できる。 ②民族自決の理念がアジアの国民国家建設に与えた影響を理解する。 ③世界恐慌へ各国の対応とその後の影響を主体的に考察し、表現できる。 ④第二次世界大戦の原因と、世界に与えた影響を理解し、表現できる。	卒業考查
	12月	5部1章 ①集団安全保障と冷戦の展開 ②多極化の始まり ③新しい国際秩序を求めて 2章 ①冷戦下の経済秩序と格差 ②グローバル経済の光と影 3章 情報と科学技術によって結びつく世界 4章 地球世界の課題の探究	①東西両陣営の対立の経緯を理解し、表現できる。 ②世界が多極化した原因や状況を理解し、表現できる。 ③冷戦終結後の国際秩序の変化を理解し、表現できる。 ①冷戦下の世界で、国家間の経済格差が拡大した状況を理解する。 ②冷戦終結後に、グローバル化が進んだ状況を理解している。 ①科学技術の高度化と知識基盤社会の進展、課題について理解する。 ②地球世界の課題について、解決に向けて主体的に追究しようとしている。	
	1月	共通テスト対策		
	2月	私立・個別学力試験対策		
定期考查	出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題 ・100点満点50分のテスト		
	予定範囲	前期中間考查	3部2章③～3部3章④イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易	
		前期末考查	4部1章①～4部1章④ラテンアメリカへの革命の波及	
卒業考查	4部2章①～5部地球世界の課題の探究			
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	世界の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技術を身につけている。		世界の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりしている。	世界の歴史の展開に関わる諸事象について、国家および社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み		定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する
学習の手引き	(1) 予習…教科書を熟読し、「授業用整理ノート」の穴埋めを完成させる。 (2) 授業…授業中は集中して説明事項の内容を理解し、生徒同士で内容を説明したり、まとめたりする能力を身につける。 (3) 復習…「総合マスター世界史」や「世界史重要語句 Check List」を活用して、知識の整理と定着を図る。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
公民	政治・経済	3	文系	一斉	3	高等学校 政治・経済 (第一学習社)	『最新図説 政経』(浜島書店) 『改訂版政治・経済ノート』(第一学習社)

目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月～7月	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 ①～⑦ ・現代の経済の仕組みと機能 ⑧～⑮ ・現代の日本経済の現状と課題			・現代の日本経済の動向について関心を高め、現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。【思考、判断、表現】 ・現代の日本経済の歩みやグローバル化をはじめとする経済生活の変化、およびその課題について考察させる。		4月実力
	9月～11月	第2章 国民経済と国際経済 ①～③ ・国際経済の仕組みと課題および日本の役割 第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 ①～③ ・現代の民主政治のあり方、世界の政治体制 ④～⑥ ・日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障 ⑦～⑨ ・日本国憲法における統治機構 ⑩～⑫ ・地方自治と現代の政治制度と課題			・グローバル化が進む国際経済についての基本的な考え方や特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。【思考、判断、表現】 ・現代の日本の政治の動向について関心を高め、民主政治の本質について把握させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。【思考、判断、表現】 ・日本国憲法における基本的人権の尊重や平和主義および統治機構を概観させるとともに、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させる。【思考、判断、表現】		前期中間
	12月～2月	第2章 現代の国際政治と日本 ①～⑤ ・国際政治の現状と課題および日本の役割 センター試験対策および大学入試特別対策授業			・国際社会の変遷や国際法の意義、国際機構の役割について理解させ、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握させるとともに、国際社会における日本の役割について考察させる。【思考、判断、		前期末 10月実力
	卒業						卒業
定期考查	出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材ノート・資料集の内容等をふまえて出題。 ・100点満点50分のテスト					
	予定範囲	前期中間	「第2編 第1章」の学習範囲から出題				
	卒業	前期末	「第2編 第2章」までの学習範囲から出題				
実力考查	出題方針	・教科書・副教材ノートの内容、副教材から約6割、応用問題を約4割出題。時事問題も出題。 ・大学入試センター試験及び各大学入試問題(政治・経済レベル)を意識した内容とする。 100点60分のテスト					
	4月実力	1年次の既習範囲である春休みの課題から出題					
	5月実力	なし					
10月実力	3年次既習範囲より出題						
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。		よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。		
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み		定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み		定期考查における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み		
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時には教科書・その他教材等を必ず準備し、授業が効率よく進められるようにすること。 日常的に新聞やニュースなどに触れながら、現代社会の諸事象を倫理的に考察する習慣を身に付けること。 授業ノートや休業中の課題、レポート等の提出期限は必ず守ること。 公欠・欠席等で授業に参加できない場合は、友人から要点ノートやプリントを借りて、板書事項を控えておく習慣を身につけること。 						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学Ⅱ	2	文系	一斉	3	数学Ⅱ Standard (東京書籍)	チャート式 数学Ⅱ+B+C(数研出版) 3TRIAL 数学Ⅱ(数研出版) ニュースタンダード数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(数研出版)

目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい				考查等
	4月	大学入試問題演習	数学ⅠAⅡBⅢCの総合演習をすることで、これまでの学習内 深化をはかる。				第1回実力考查 前期中間考查 前期末考查 第2回実力考查 卒業考查
	5月						
	6月						
	7月						
	8月						
	9月						
	10月						
	11月						
	12月						
1月	大学入試問題演習 (特別授業)	国公立大学前期試験・私立大学試験対策演習 ※進路希望別履修					
2月							
定期考查	出題方針	教科書と同等難易度の問題を中心に、副教材・発展学習教材などから出題する。 60分 100点満点					
	予定範囲	前期中間	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題				
		前期末 卒業	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題				
実力考查	出題方針	200点満点とし、すべて大学入試問題を想定した応用力をみる問題とする。知識及び技能だけでなく、思考力、判断力、表現力等をみる問題を出題する。					
	予定範囲	第1回実力	数学ⅠAⅡBⅢCの基本的総合問題(知識及び技能をみる問題を中心とする)				
		第2回実力	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題(思考力、判断力、表現力等をみる問題を中心とする)				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形の性質を論理的に考察する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価基準	単元テスト(考查を含む)		単元テスト(考查を含む)		レポート(考查の振り返りや自宅学習の計画的な取組等を含む)		
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学Ⅲ	3	理系	一斉	3	数学Ⅲ Standard (東京書籍)	チャート式 数学Ⅲ+C(数研出版)

目標	極限, 微分法及び積分法の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。						
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい				考查等
	4月	4章 微分法の応用 1節 導関数の応用 2節 いろいろな応用	導関数を求め, いろいろな関数の接線の方程式や極値を求めたりグラフをかくことができるようになる。 微分を用いた不等式の証明や方程式の実数解の個数を求めることができるようになる。				第1回実力考查
	5月	5章 積分法とその応用 1節 不定積分 2節 定積分	・様々な関数の不定積分や定積分を求められるようにする。また定積分を面積として捉え, 様々な事象の考察に活用できるようにする。				
	6月	3節 積分法の応用	・定積分を活用して, 面積, 体積, 曲線の長さなどを求められるようにし, またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。				
	7月	大学入試問題演習	数学ⅠAⅡBⅢCの総合演習をすることで, これまでの学習内深化をはかる。				前期中間考查 前期末考查 第2回実力考查 卒業考查
	8月						
	9月						
	10月						
	11月						
	12月						
1月							
2月	大学入試問題演習(特別授業)	国公立大学前期試験・私立大学試験対策演習 ※進路希望別履修					
定期考查	出題方針	教科書と同等難易度の問題を中心に, 副教材・発展学習教材などから出題する。 60分 100点満点					
	予定範囲	前期中間	微分法の応用・積分法とその応用(一部)				
		前期末 卒業	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題 数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題				
実力考查	出題方針	200点満点とし, すべて大学入試問題を想定した応用力をみる問題とする。知識及び技能だけでなく, 思考力, 判断力, 表現力等をみる問題を出題する。					
	予定範囲	第1回実力	数学ⅠAⅡBⅢCの基本的総合問題(知識及び技能をみる問題を中心とする)				
	第2回実力	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題(思考力, 判断力, 表現力等をみる問題を中心とする)					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	極限, 微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数列や関数の値の変化に着目し, 極限について考察したり, 関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し, 数学的に考察したりする力, いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価基準	単元テスト(考查を含む)		単元テスト(考查を含む)		レポート(考查の振り返りや自宅学習の計画的な取組等を含む)		
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)		
数学	数学A	2(文系) 1(理系)	文系選択 理系	一斉	3	数学A Standard (東京書籍)	NEW ACTION LEGEND 数学 I +A ニュースタンド数学演習 I・A+II・ B・C		
目標	数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。								
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等		
	4月(5)	新編 数学A 第3章 数学と人間の活動 第1節 数える 1数との出会い			・古代エジプトの数学や古代ローマの数字の記数法についての 特徴を現在の記数法と比較しながら考察することができる。さら に、n進法の特徴について考察するとともに、2進法を利用した数 当ての仕組みについて理解する。		第1回実力考查 (新入生テスト)		
	5月(6)	2 数の拡張			1を単位とした端数の考え方をもとにしてユークリッドの互除法の 仕組みを理解し、それを用いて2つの正の正数の最大公約数を 求めることができる。また、文化圏による小数と分数の使われ方 の違いや正方形の対角線を利用した無理数の長さの線分の作 図について考察することができる。		前期中間考查		
	6月(7)								
	7月(4)	第2節 はかる 1 時間を計る			古代より用いられてきた振り子による時間の計測の仕方につい て考察することができる。また、暦の考え方を理解し、うるう年が 必要になる理由について考察することができる。		前期末考查 第2回実力考查		
	8月(4)	2 空間を測る			・古代エジプトの数学や古代ローマの数字の記数法についての 特徴を現在の記数法と比較しながら考察することができる。さら に、n進法の特徴について考察するとともに、2進法を利用した数 当ての仕組みについて理解する。 ・古代ギリシャにおける地球の大きさの計測方法や地球と太陽 の距離の求め方、測量による日本地図の作成方法やその精度 などについて考察することができる。				
	9月(5)								
	10月(7)								
	11月(6)	第3節 遊ぶ 1 数学パズルで遊ぶ			魔法陣の考え方や解き方などについて世界中の魔法陣の様子 とともに考察することができる。また、オオカミとヤギとキャベツの 川渡り問題について数学を活用して考察することができる。		後期中間考查		
	12月(7)	2 和算で遊ぶ			和算の油分け算の仕組みについて2元1次不定方程式を活用し て考察することができる。		卒業考查		
	1月(5)	問題演習			これまで学習した問題の類題を学習する。				
	2月(5)								
3月(4)									
定期考查	出題方針	・教科書の例題に類する問題を問題集および参考書から出題する。 ・60分100点。							
	予定範囲	前期中間 数A 第3章 数学と人間の活動(第1節 数える、数の拡張)							
		前期末 数A 第3章 数学と人間の活動(第2節 はかる)							
		後期中間 数A 第3章 数学と人間の活動(第3節 数学パズルで遊ぶ)							
実力考查	出題方針	テキストの内容から5割、実力問題							
	予定範囲	指定問題と実力問題							
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
内容	古代エジプトの数字や古代ローマ、バビロニアの記数法で表すことができる。正方形の対角線を利用した無理数の長さの線分を作図する方法を理解している。振り子のひもの長さ周期の2数の関係を式に表すことができる。古代ギリシャにおける地球の直径の計測方法や地球と太陽間の距離の求め方を理解している。空間内の点の位置を座標平面上の点から座標空間に拡張させて表すことができる。魔法陣の考え方を式を立てたり、魔法陣の場合の数を求めたりすることができる。オオカミとヤギとキャベツの川渡り問題について理解している。		古代エジプトの数字や古代ローマの数字の記数法についての特徴を現在の記数法と比較しながら考察することができる。ひもの端数の考え方を利用して、ユークリッドの互除法の仕組みを考察することができる。正方形の対角線が無理数であることについて説明することができる。振り子による時間の計測の仕方について、振り子のひもの長さに着目して考察することができる。測量による日本地図の作成方法やその精度などについて考察することができる。オオカミとヤギとキャベツの川渡り問題について数学を活用して考えようとしている。		古代エジプトの数字や古代ローマの数字の記数法についての特徴を現在の記数法と比較しながら考察することができる。ひもの端数の考え方を利用して、ユークリッドの互除法の仕組みを考えようとしている。正方形の対角線が無理数であることについて考えようとしている。振り子による時間の計測の仕方について、振り子のひもの長さに着目して考えようとしている。測量による日本地図の作成方法やその精度などについて考察することができる。オオカミとヤギとキャベツの川渡り問題について数学を活用して考えようとしている。				
評価基準	定期考查 提出物の提出状況(夏季・秋季課題、小テスト等)		定期考查 実力考查		授業への取り組み(授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等)				
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する				
学習の手引き	○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて考え、理解することに集中する。 ○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。								

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学B	2	文系	一斉	3	数学B Standard (東京書籍)	チャート式 数学Ⅱ+B+C(数研出版) 3TRIAL 数学Ⅱ+B+C(数研出版) ニュースタンダード数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(数研出版)

目標	統計的な推測の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい			考查等
	4月	2章 統計的な推測 1節 確率分布		・確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。			第1回実力考查
	5月	2節 統計的な推測		・母集団と標本、標本平均、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定について理解し、考察できるようにする。			
	6月	大学入試問題演習		数学ⅠAⅡBⅢCの総合演習をすることで、これまでの学習内深化をはかる。			前期中間考查
	7月						
	8月						
	9月						
	10月						前期末考查
	11月						
	12月						第2回実力考查
	1月						
	2月	大学入試問題演習(特別授業)		国公立大学前期試験・私立大学試験対策演習 ※進路希望別履修			卒業考查
定期考查	出題方針	教科書と同等難易度の問題を中心に、副教材・発展学習教材などから出題する。 60分 100点満点					
	予定範囲	前期中間	統計的な推測				
		前期末	数学ⅠAⅡBCの総合問題				
卒業	数学ⅠAⅡBCの総合問題						
実力考查	出題方針	200点満点とし、すべて大学入試問題を想定した応用力をみる問題とする。知識及び技能だけでなく、思考力、判断力、表現力等をみる問題を出題する。					
	予定範囲	第1回実力	数学ⅠAⅡBCの基本的総合問題(知識及び技能をみる問題を中心とする)				
		第2回実力	数学ⅠAⅡBCの総合問題(思考力、判断力、表現力等をみる問題を中心とする)				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価基準	単元テスト(考查を含む)		単元テスト(考查を含む)		レポート(考查の振り返りや自宅学習の計画的な取組等を含む)		
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学B	2	理系	一斉	3	数学B Standard (東京書籍)	チャート式 数学Ⅱ+B+C(数研出版) 3TRIAL 数学Ⅱ+B+C(数研出版) ニュースタンダード数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(数研出版)

目標	統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月	2章 統計的な推測 1節 確率分布	<ul style="list-style-type: none"> 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。 母集団と標本、標本平均、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定について理解し、考察できるようにする。 	第1回実力考查
	5月	2節 統計的な推測		
	6月	大学入試問題演習	数学ⅠAⅡBⅢCの総合演習をすることで、これまでの学習内深化をはかる。	前期中間考查
	7月			
	8月			
	9月			
	10月			
	11月	大学入試問題演習(特別授業)	国公立大学前期試験・私立大学試験対策演習 ※進路希望別履修	卒業考查
	12月			
	1月			
	2月			
定期考查	出題方針	教科書と同等難易度の問題を中心に、副教材・発展学習教材などから出題する。 60分 100点満点		
	予定範囲	前期中間	統計的な推測	
		前期末 卒業	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題	
実力考查	出題方針	200点満点とし、すべて大学入試問題を想定した応用力をみる問題とする。知識及び技能だけでなく、思考力、判断力、表現力等をみる問題を出題する。		
	予定範囲	第1回実力	数学ⅠAⅡBⅢCの基本的総合問題(知識及び技能をみる問題を中心とする)	
		第2回実力	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題(思考力、判断力、表現力等をみる問題を中心とする)	
観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容	統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価基準	単元テスト(考查を含む)	単元テスト(考查を含む)	レポート(考查の振り返りや自宅学習の計画的な取組等を含む)	
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学C	1	理系	一斉	3	数学C Standard (東京書籍)	チャート式 数学Ⅱ+B+C(数研出版) 3TRIAL 数学Ⅱ+B+C(数研出版) ニュースタンダード数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(数研出版)

目標	複素数平面、式と曲線について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい				考查等
	4月	3章 複素数平面	複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。				第1回実力考查
	5月	4章 式と曲線 1節 2次曲線	・放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるようにする。 ・媒介変数及び極座標の仕組みを理解し、曲線の媒介変数表示や図形の極方程式について考察したり、求めたりできるようにする。				前期中間考查
	6月						
	7月	大学入試問題演習	数学ⅠAⅡBⅢCの総合演習をすることで、これまでの学習内容の深化をはかる。				前期末考查
	8月	大学入試問題演習(特別授業)	国公立大学前期試験・私立大学試験対策演習 ※進路希望別履修				
	9月						
	10月						
	11月						
	12月	卒業考查					
1月							
2月	卒業						
定期考查	出題方針	教科書と同等難易度の問題を中心に、副教材・発展学習教材などから出題する。 60分 100点満点					
	予定範囲	前期中間	複素数平面・式と曲線				
		前期末	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題				
卒業	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題						
実力考查	出題方針	200点満点とし、すべて大学入試問題を想定した応用力をみる問題とする。知識及び技能だけでなく、思考力、判断力、表現力等をみる問題を出題する。					
	予定範囲	第1回実力	数学ⅠAⅡBⅢCの基本的総合問題(知識及び技能をみる問題を中心とする)				
第2回実力	数学ⅠAⅡBⅢCの総合問題(思考力、判断力、表現力等をみる問題を中心とする)						
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価基準	単元テスト(考查を含む)		単元テスト(考查を含む)		レポート(考查の振り返りや自宅学習の計画的な取組等を含む)		
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	物理	5	理系	一斉	3	総合物理2(数研)	物理のエッセンス(河合出版) セミナー物理(第一学習者)

目標	物理的な事物・現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な自然観を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	Ⅲ波 3光			Ⅲ 3波の性質のうち, 光において特徴的な現象について学ぶ。		4月課題
	5月	IV電気と磁気 1電場 ・静電気力/電場/電位/物質と電場/コンデンサー 演習			IV 1電荷が相互に及ぼしあう力や電場の表し方を学び, 電場と電位関係やコンデンサーの性質を理解する。		5月実力
	6月	2電流 ・オームの法則/直流回路/半導体/演習			2電気回路について学び, キルヒホッフの法則や抵抗率の温度変化, 電池の起電力と内部抵抗, ホイートストンブリッジ, 半導体など実験・観察を通して理解する。		前期中間考查
	7月	3電流と電場 ・磁場/電流がつくる磁場/電流が磁場から受ける力/ローレンツ力/演習問題			3直線電流・円形電流がつくる磁場について学び, 磁場中の電流や電荷が受ける力についての理解する。		前期末考查
	8月	4電磁誘導と電磁波 ・電磁誘導の法則/交流の発生/自己誘導と相互誘導/交流回路/電磁波/演習/探求活動			4電磁誘導と誘導起電力, 自己誘導・相互誘導, 渦電流について実験・観察を通して理解する。交流発電機の仕組みを実験を通して学ぶ。電磁波の基本的性質とその利用について理解する。		
	9月						10月実力
	10月	V原子 1電子と光 ・電子/光の粒子性/X線/粒子の波動性/演習問題 2原子と原子核 ・原子の構造とエネルギー順位/原子核/放射線とその性質/核反応と核エネルギー/素粒子			V 1電子や光が粒子性と波動性の両方の性質を持つことを理解する。光電効果, 電子線回折, X線の性質について学ぶ。 2原子核の構成, 原子核の崩壊及び核反応について理解する。素粒子の存在について知る。		
	11月～	入試問題研究					卒業考查
	定期考查	出題方針	物理概念や基本法則の活用で能力を確認する問題を中心に出题する。具体的には教科書や副教材の例題や基本問題, 実験を扱った問題を物理用語, 公式を用いて解答する形式となる。				
予定範囲		前期中間	第4編 電気と磁気 第1章 電場, 第2章 電流				
		前期末	第4編 電気と磁気 第3章 電流と磁気, 第4章 電磁誘導と電磁波				
卒業	第5編 原子 第1章 電子と光, 第2章 原子と原子核						
実力考查	出題方針	教科書の例題をベースに, 共通テストや個別学力検査に対応できる力を見るための出題とする。テーマごとの重要問題及び頻出問題を各分野から各1題(6割), 基礎基本を中心とした融合問題及び総合問題を4割程度出題する。					
	予定範囲	4月課題	力学・波動(2年次の定着度確認・5割), 3月分の日課及び春休み課題(5割)。				
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		力学や波動・電磁気学・原子の特性について理解し, 実験・観察において目的に沿って的確に行うことができる。		力学・波動・電磁気学・原子を定性的・定量的に扱い, 理解・考察ができる, 的確に表現することができる。		身近な物理現象への関心を深め進んで理解しようとしている。実験・観察において目的をもって取り組もうとしている。	
		3つの観点についてそれぞれ次のA～Cで評価する		A 十分満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する		① 授業への取り組み ② 定期考查, 実力考查の成績, 単元テスト ③ 各種課題への取り組み ※①～③を総合的に判断	
学習の手引き	1 授業の予習・復習及び日課に毎日最低20分ずつ行い, 既習内容を理解してから次の授業に臨む。 2 ノートは大学ノートを用い, 授業用, 課題用の各1冊を用意する。指定した時期に提出を求める。 3 課題ノートの提出期限を守ること。考查の訂正ノートも同様。 4 定期考查では, 物理の理解度と日々の取り組み状況を測る。実力考查では物理の思考力を実践問題から測る。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	化学	4	理系	一斉	3	高等学校化学(第一学習社)	セミナー化学基礎+化学(第一学習社) 2025化学重要問題集(数研出版) サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)

目標	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究しようとするための技能を観察・実験などを通じて身に付ける。また、化学的な事物・現象に主体的に関わり、化学的に探究しようとする態度を養う。
----	--

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月	第Ⅲ章 無機化学 第2節 非金属元素 第3節 典型金属元素	・非金属元素, 典型金属元素について学ぶ。 ・非金属元素の単体や化合物について, 性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・典型金属元素の単体や化合物について, 性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。	4月課題考查
5月	第4節 遷移元素	・遷移金属元素について学ぶ。 ・遷移金属元素の単体や化合物について, 性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・金属イオンの定性分析について観察・実験を通じて理解する。		
6月	第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴 第2節 脂肪族炭化水素	・有機化合物の特徴と分類, 脂肪族化合物の性質や反応について学ぶ。 ・有機化合物の構造式決定過程を学び, その原理を理解する ・飽和炭化水素, 不飽和炭化水素の性質や反応について理解する。	前期中間考查	
7月 8月	第3節 酸素を含む脂肪族化合物	・酸素を含む有機化合物について学ぶ ・有機化合物の性質が官能基により特徴付けられていることを学び, 有機化合物相互の関係性について理解する。	前期末考查	
9月	第4節 芳香族化合物	・芳香族化合物について学ぶ。 ・芳香族化合物の構造や性質, 反応について学び, 脂肪族化合物との違いを理解する。 ・有機化合物の相互の関係性を知り, 活用されているか理解する。		
10月	第Ⅴ章 高分子化合物 第1節 高分子化合物 第2節 天然高分子化合物	・高分子化合物について学ぶ。 ・高分子化合物と低分子量の化合物との違いについて理解する。 ・天然に存在する高分子化合物の構造や性質, 役割を理解する	10月実力考查	
11月 12月	第3節 合成高分子化合物	・合成高分子化合物の製法や性質, 用途について理解する。		
1月～	終章 化学を築く未来	・化学が果たしてきた役割について学ぶ。 ・さまざまな物質がそれらの特長を生かして人間生活の中で利用され, 日常生活を豊かなものに行っていることを理解する。	卒業考查	

定期考查	出題方針	・教科書の内容を中心に, 副教材の問題をふまえて出題 ・100点満点50分のテスト
	予定範囲	前期中間 無機化学 非金属元素～遷移元素まで
		前期末 有機化合物 有機化合物の特徴～酸素を含む脂肪族化合物まで 学年末 有機化合物 芳香族化合物 及び 高分子化合物 天然高分子化合物～合成高分子化合物まで

実力考查	出題方針	・教科書の内容, 副教材から約5割, 応用問題を約5割出題 ・100点満点60分のテスト
	予定範囲	4月課題 春休み課題から出題(1, 2年次の復習) 10月実力 酸素を含む脂肪族化合物まで

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	物質の成り立ちや性質, 化学反応について理解し, 実験・観察において目的に沿って的確に行うことができる。	物質を定性的・定量的に扱い, 考察することができる。具体的な実験を基に物質の性質を理解し, 的確に表現することができる。	身近な化学事象への関心を深め進んで理解しようとしている。実験・観察において目的を持って取り組もうとしている。
3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する	A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	① 授業への取組 ② 定期考查, 実力考查の成績 ③ 各種課題への取組	* ①～③を総合的に判断する

学習の手引き	(1) 予習…教科書を読み, 次時の学習事項を確認する。 (2) 授業…授業が勝負です。予習した学習事項を確認しながら, 授業に集中し考えることが大切です。授業中理解できなかったことは, その日のうちに質問する。疑問を家まで持ち帰らない。 (3) 復習…授業で理解したことを再認識するためにまとめノートを作成したり, 問題集を何回も繰り返し学習することで, 重要な理論・法則を思い出しながら使い, 自分の理解度を深めることができます。
--------	---

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	生物基礎	2	文系	一斉	3	高等学校 生物基礎(第一学習社)	新課程フォトサイエンス生物図録(数研出版), 改訂ニューアチーブ生物基礎(東京書籍), チェック&演習生物基礎(数研出版), 直前演習生物基礎(株式会社ベネッセ), 思考カトレーニング(数研出版)

目標	・目的意識をもって観察, 実験などを行うことで生命現象に対する探究心を高め, 生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的な自然観を養う。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生と遷移			<ul style="list-style-type: none"> ・植生とその成り立ちについてどのような分類がなされているか理解する。 ・光の強さと光合成速度の関係について理解する。 ・裸地からどのように植生が変化していくか理解する。 ・気候と植生の関係を理解し, 地球上にどんな植生が分布しているのかについて知る。 		第1回実力考查
	5月	第5章 生態系とその保全			<ul style="list-style-type: none"> ・日本にどんな植生が分布しているのかについて知る。 ・生態系の成り立ちとそれを構成する生産者や消費者との関係について理解する。 ・炭素や窒素の循環とエネルギーの循環について理解し, 両者の違いについて学ぶ。 ・生態系における有機物の収支について学ぶ。 ・生態系のバランスを保つのにどのような作用がはたしているか理解する。 		前期中間考查
	6月				<ul style="list-style-type: none"> ・現在見られる環境問題について理解する。 		前期末考查
	7~1月	復習および共通テスト対策演習			<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の学習内容からすべて復習 ・過去問, 問題集等を利用した演習 		第2回実力考查 卒業考查
定期考查	出題方針	・教科書の内容を中心に, 副教材の問題をふまえて出題。 ・100点満点, 50分で実施する。					
	予定範囲	前期中間	生物基礎(第1編~第3編)				
		前期期末 学年末考查	生物基礎(第1編~第3編) 生物基礎(全範囲)				
実力考查	出題方針	・教科書の内容, 副教材を中心に応用問題を出題する。 ・大学入試問題を意識した内容とする。50点満点, 30分で実施する。					
	予定範囲	第1回実力	生物基礎(全範囲)				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	目的に沿って実験・観察を的確に行い, 生物や生命現象の基本的概念や原理・法則について理解し, 知識として身に付けている。		基本的概念や原理・法則をもとに, 科学的・論理的な思考・判断ができる。また, 目的に合った実験を計画し, 検証を行うことができる。		身近な生命現象への関心を深め進んで理解しようとしている。実験・観察において主体的に取り組もうとしている。		
	3つの観点についてそれぞれ次のA~Cで評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する		① 授業への取組 ② 定期考查, 実力考查の成績 ③ 各種課題への取組		* ①~③を総合的に判断する
学習の手引き	(1)予習…教科書を一読して, 学習内容を把握し, 疑問点をもって授業に臨もう。 (2)授業…最大限に頭を働かせて, 授業内容をしっかりと聞き, 理解するよう努めること。理解できないことは, まずは自ら調べ, その上で担当の先生へ質問する。話し合い活動では, 間違いを恐れず積極的に自分の意見を述べ, 相手の意見を聴くように心がけよう。 (3)復習…授業のあった日に復習しよう。まず授業内容を再確認し, その意義や理由, 他の分野とのつながりについてもよく考え理解する。このとき図やグラフを描く, 基本用語を声に出すなど感覚をフル活用する工夫をするとよい。また, 週末等の時間に余裕があるときに, 問題演習を行うことで自分の理解度を客観的に評価する。更なる理解力と論理的な思考力も身に付ける。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	生物	5	理系	一斉	3	高等学校 生物(第一学習社)	新課程版セミナー 生物(第一学習社), 新課程フォトサイエンス生物図録(数研出版), ニューアチーブ生物(東京書籍), チェック&演習 生物(数研出版), 共通テ スト直前演習 生物(株式会社ベネッセ)

目標	・目的意識をもって観察、実験などを行うことで生命現象に対する探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。
----	--

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考査等
	4月	第3編 遺伝情報の発現と発生 第5章 遺伝情報とその発現 第6章 遺伝子の発現調節と発生	・DNAの二重らせん構造について理解する ・転写、翻訳の過程について理解する ・遺伝子発現の調節について理解する ・カエルとショウジョウバエの発生のしくみについて理解する	第1回実力考査
5月	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用	・遺伝子を扱う技術について理解する ・遺伝子や細胞を扱う技術の課題について自分の考えをまとめる		
6月	第4編 生物の環境応答 第8章 動物の反応と行動 第9章 植物の成長と環境応答	・刺激の受容から反応までのしくみについて理解する ・動物の行動についてしくみを理解する ・行動の神経メカニズムについて理解する ・被子植物の配偶子形成と受精について理解する ・被子植物の胚の発生について理解する ・植物ホルモンの種類とはたらきについて理解する	前期中間考査	
7月				
8月	第5編 生態と環境	・個体数の把握が種の多様性の維持にとって重要であることを理解する	前期末考査	
9月	第10章 生態系のしくみと人間の関わり	・個体群のなかの個体どうしの関係や、異なる個体群どうしの関係があることについて理解する ・生態系全体のエネルギーの流れについて理解する ・生態系全体の炭素や窒素の流れについて理解する ・生物多様性について理解する ・人間の活動が地球環境に及ぼす影響について理解する ・外来生物と在来生物について理解する ・SDGsとこれまで学習した内容を関連付けて考える	第2回実力考査	
10月				
11月	大学入試共通テスト対策		・ 大学入試共通テストを想定した演習。	卒業考査
1月下旬～	二次試験対策		・ 各大学の二次試験を想定した演習。	

定期考査	出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題。 ・100点満点、50分で実施する。
	予定範囲	前期中間 第3編 前期末末 第3～4編 学年末考査 第4～5編

実力考査	出題方針	・教科書の内容、副教材を中心に応用問題を出題する。 ・大学入試問題を意識した内容とする。100点満点、60分で実施する。
	予定範囲	第1回実力 生物 第1編～第2編(2年次既習範囲を含む) 第2回実力 生物 第1編～第5編

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	目的に沿って実験・観察を的確に行い、生物や生命現象の基本的概念や原理・法則について理解し、知識として身に付けている。	基本的概念や原理・法則をもとに、科学的・論理的な思考・判断ができる。また、目的に合った実験を計画し、検証を行うことができる。	身近な生命現象への関心を深め、進んで理解しようとしている。実験・観察において主体的に取り組もうとしている。
3つの観点についてそれぞれ次のA～Cで評価する	A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	① 授業への取組 ② 定期考査、実力考査の成績 ③ 各種課題への取組	* ①～③を総合的に判断する

学習の手引き	(1)予習…教科書を一読して、学習内容を把握し、疑問点をもって授業に臨もう。 (2)授業…最大限に頭を働かせて、授業内容をしっかりと聞き、理解させるよう努めること。理解できないことは、まずは自ら調べ、その上で担当の先生へ質問する。話し合い活動では、間違いを恐れず積極的に自分の意見を述べ、相手の意見を聴くように心がけよう。 (3)復習…授業のあった日に復習しよう。まず授業内容を再確認し、その意義や理由、他の分野とのつながりについてもよく考え理解する。このとき図やグラフを描く、基本用語を声に出すなど感覚をフル活用する工夫をするとよい。また、週末等の時間に余裕があるときに、問題演習を行うことで自分の理解度を客観的に評価する。更なる理解力と論理的な思考力も身に付ける。
--------	--

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行者)	副教材・発展学習教材(発行者)
理科	地学基礎	2	文系	一斉	3	数研出版 高等学校 地学基礎	2025新課程版セミナー地学基礎(第一学習社) 地学基礎研究ノート(博洋社) 二訂版ニューステージ地学図表(浜島書店) ベストフィット地学基礎(実教出版) 共通テスト対策直前演習地学基礎(ラーズ)
目標	私たちの住む地球は、太陽系に属する惑星です。そして、その地球は現在知られている限り生命の宿る唯一の星です。その事を踏まえたとき、自分の住む場所について深く知っておくことは決して無駄なことではないことが分かります。地学基礎では、地球の概観・地表付近で起こる諸現象・地球史とその調べ方・気象・宇宙などについて学び、地学分野に関する観察、実験などを通して、地球や宇宙に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい			考査等
	4月	第3編 大気と海洋 第2章 大気と海水の運動		・大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。また、海洋の鉛直方向の循環を学ぶ。 ・日本の各季節の天気の特徴を理解し、気象災害について学び、防災に役立てる。			
	5月	第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 第2章 宇宙の誕生		・太陽系の天体、太陽の表面の様子及び活動について学ぶ。太陽及び太陽系の形成過程を学び、地球に生命が誕生した要因を学ぶ。 ・銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。また、ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。			
	6月	第2章 宇宙の誕生 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境		・気候変動のような現象を、大気と海洋・雪氷を含む地表を全地球的にとらえ、様々な断面からの例を総合して環境問題をとらえる。 ・日本の自然環境の特徴を知り、そこで起こっている災害を理解する。			前期中間
	7月	大学入学共通テストに向けた演習		・これまでの学習内容の深化をはかる。			
	8月	大学入学共通テストに向けた演習		・これまでの学習内容の深化をはかる。			前期期末
	9月	大学入学共通テストに向けた演習		・これまでの学習内容の深化をはかる。			
	10月	大学入学共通テストに向けた演習		・これまでの学習内容の深化をはかる。			10月実力
	11月	大学入学共通テストに向けた演習		・これまでの学習内容の深化をはかる。			卒業考査
	12月	大学入学共通テストに向けた演習		・これまでの学習内容の深化をはかる。			
	1月	大学入学共通テストに向けた演習		・これまでの学習内容の深化をはかる。			
	2月						
3月							
定期考査	出題方針	教科書の既習範囲と副教材等から出題 ・100点満点50分のテスト					
	予定範囲	前期中間	第3編 第1章～第3章、第5編 第1章～第2章				
		前期期末	第4編 第1章、地学基礎の既習範囲				
卒業考査		地学基礎の全範囲					
実力考査	出題方針	既習範囲全てを出題範囲とし、応用問題を中心に出题する。					
	予定範囲	4月実力	2年3月までに学習した範囲で、地球史に関する基本問題、及び全範囲の応用問題を出題する。				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	基本的な知識の習得や知識の概念的な理解が出来るか。さまざまな観察・実験操作の基本的な技術の習得が出来る。		身の回りの現象を探究し、自ら考えて答えることが出来るか。習得した「知識・技能」を活用して課題を解決する力を身につけることが出来る。		知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組む、自ら学習を調整しようとしている。		
学習の手引き	3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する		① 授業への取組 ② 定期考査、実力考査の成績 ③ 各種課題への取組 * ①～③を総合的に判断する		
	・予習は、教科書を一読しておく程度で良い。一読して理解できなかった部分を授業中に理解できるように努めること。 ・授業では、教科書や図表などを活用しながら、「なぜそうなるのか」「どのように解決するのか」など自ら考えるように心がける。また、図やグラフ、表の読み取りや表現にも慣れよう。また、図説は日頃から目を通すようにすること。 ・復習は、その日に学習した内容を必ず見直し基本的な問題に取り組み、理解を深めること。また、週末等の時間を活用し、問題演習に必ず取り組むこと。 ・小テストを行う。しっかりと取り組み基本事項の定着を図ること。 ・学校での学習だけでなく、日頃から新聞記事やニュースなどに注目し、火山噴火・地震・日々の天気の変化などに注意を払っておくこと。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
保健体育	体育	2	共通	種目選択	3	現代高等保健体育(大修館)	アクティブスポーツ(大修館)

目標	<p>1 スポーツについての知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わう。</p> <p>2 自分にあった体力の向上を目指す。</p> <p>3 スポーツを通して「公正・協力・責任・参画」に対する意欲を高め、自ら健康・安全を確保できるようにする。</p>						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		
	8月 12月	体育理論			<ul style="list-style-type: none"> ●豊かなスポーツライフの設計の仕方について学ぶ。 ●前期と後期に分けて学習する。 		
	4月 8月	体づくり運動			<ul style="list-style-type: none"> ●仲間と積極的に交流するための手軽な運動や規律的な運動を通して、心と体は互いに影響し変化することに気づき、自分の体の調子に応じて体の調子を整えながら「体ほぐしの運動」できるようになる。 ●自分のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てて「体力を高める運動」に取り組む。 ●前期と中期に学習する。 		
	年間を通して複数領域から種目を選択して学習する。	選択	球技(前期)	ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ●「ベースボール型」の球技として学習する。 ●状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することを学ぶ。 		
				バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。 		
				ソフトテニス	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。 		
			球技(後期)	バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ●「ゴール型」の球技として学習する。 ●安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することを学ぶ。 		
				サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●役割に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を学ぶ。 		
				バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。 		
			卓球	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。 			
ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、対極の動きや空間の使い方に変化をつけて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊ることを学ぶ。 ●現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりをつけて仲間と対応したりして踊ることを学ぶ。 						
陸上	<ul style="list-style-type: none"> ●おもに「競走」の長距離走を学習する。 ●自ら変化のあるペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ることを学ぶ。 						
評価	観点・方法	<p>(1) ①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価する。</p> <p>(2) 実技テスト、グループ日誌、各種目スコアカード、授業への参加・取組状況等を通して評価する。</p> <p>(3) 一年間の全て評価をまとめ、数値処理して5段階評定を決定する。</p>					
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に目を通して、選択種目のルールや練習方法等を確認する。 ・体育は身体を動かすことが大切です。積極的に身体を動かし、分からないことはその場で質問する。 						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
芸術	音楽Ⅲ	2	文系選択	一斉	3年	Joy of Music(教育芸術社)	適宜プリント等を配布

目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		備考
	前期	4月	【音楽理論】 音、純正律と十二平均律 【聴音】 C dur 【コールユーブンゲン】 No.18～41までを8月まで繰り返し行う 【新曲視唱】		・音楽理論では、楽曲分析や演奏に必要な基礎的な知識を学習する。 ・聴音では、基礎的な単旋律を聴き取り、記譜できるようにする。 ・コールユーブンゲンと新曲視唱では、無理のない発声を身につけ、基礎的なリズムや音程を正確に歌唱できるようにする。		・音楽理論と聴音は段階を経て知識が定着するように学習をしていきます。 ・コールユーブンゲンと新曲視唱は年間を通じて繰り返し練習していくことで力を付けられるようにしていきます。
		5～6月	【音楽理論】 譜表と音名、音程 【聴音】 a moll, G dur, e moll		・音楽理論では、楽曲分析や演奏に必要な基礎的な知識を学習する。 ・聴音では、臨時記号を含む単旋律を聴き取り、記譜できるようにする。		
		6～7月	【音楽理論】 音階と調 【聴音】 e moll, F dur, d moll		・音楽理論では、楽曲分析や演奏に必要な基礎的な知識を学習する。 ・聴音では、臨時記号を含む単旋律を聴き取り、記譜できるようにする。		
	7～8月	【音楽理論】 前期のまとめ 【聴音】 前期のまとめ		・コールユーブンゲンと新曲視唱では、無理のない発声を身につけ、基礎的なリズムや音程を正確に歌唱できるようにする。		・最終的には目指す大学に合わせた力を付けて、受験に対応しつつ総合的に音楽的な力が付くようにしていきます。	
	後期	9～10月	【音楽理論】 和音、音符と休符、リズムと拍子 【聴音】 D dur, h moll, B dur, g moll, A dur, fis moll 【コールユーブンゲン】 No.42～87までを12月まで繰り返し行う 【新曲視唱】		・音楽理論では、楽曲分析や演奏に必要な基礎的な知識を身に付けられるようにする。 ・聴音では、転調を含む単旋律を聴き取ったり、複旋律や四声和声を聴き取ったりして記譜できるようにする。 ・コールユーブンゲンと新曲視唱では、複雑なリズムや音程を正確に歌唱できるとともに、表現力を身に付けられるようにする。		
10～12月		【音楽理論】 速さ・強さ・曲想、奏法に関する表示法 【聴音】 Es dur, c moll, As dur, f moll, E dur, cis moll		・専門的に学ぶために必要な楽曲分析力を身につけ、音楽表現に生かされるようにする。			
1月	【音楽理論】 まとめ 【聴音】						
定期考査	出題方針	題材の内容に応じて、知識・技能の定着を見るために実技や筆記試験を行います。(授業内で実施)					
	予定範囲	前期	ソルフェージュ(聴音・コールユーブンゲン)の実技、音楽理論(音階と調)に関する事項				
		後期	ソルフェージュ(聴音・コールユーブンゲン)の実技、音楽理論(総合)に関する事項				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
目標	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することができる。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む。		
評価の観点及びその趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。		音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
評価基準	実技テスト、ワークシート等		実技テスト、ワークシート等		実技活動、ワークシート等		
	実技やワークシートの記入など、評価の対象となるものについて、題材毎に三観点における評価基準を3つ程度(大変よくできた・できた・努力を要する等)設定し、内容に応じて文言を詳しく提示します。						
学習の手引き	入試に必要な科目を重点的に行います。特に理論は受験科目であるなしにかかわらず重要な科目です。随時配布する課題に取り組みましょう。また、ソルフェージュは授業だけでなく、毎日の宅習が必要不可欠です。学習の成果はすぐには表れませんが、努力すれば必ず身につけていきます。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
芸術	美術Ⅲ	2	文系 選択	一斉	3	高校生の美術3(日文)	適宜プリント等を配付

目標		美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考査等は実施 ませんが、 授業の中で取 り組む態度、 制作のプロセ ス、作品等を 適宜評価しま す。	
	前期	4月	オリエンテーション			個人の目標に応じた年間スケジュールを作成する。		
		5月	(静物デッサン・石膏デッサン・ 卓上デッサン・油画・彫塑・日本 画・デザイン・工芸など)			・基礎的なデッサン力を養う。 ・適性を見極め、専門分野を研究する。		
		6月	石膏デッサンと専門分野の学習			・デッサン力の向上を図る。		
		7月				・専門分野の力をつける。		
		8月	ポートフォリオの作成			・作品を整理する。		
		9月						・想定課題を演習する。
	後期	10月	〈西洋美術史〉 〈日本美術史〉					
		11月	特別授業			・二次試験対策(実技)		
		12月						
		1月						
		2月						
2月								
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容		造形的な見方・考え方を働かせて、造形要素の働きなどについて、創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりしている。また意図に応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして表すなどの創造的な技能を身に付けている。		造形的な見方・考え方を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。また美的体験を豊かにし、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きや、美術文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。		造形的な見方・考え方を働かせて、美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や、生活や社会の中の美術の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。		
評価の観点		・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表している。		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む、自他のよさを認め合いながら、創造の喜びを味わおうとしている。		
評価基準		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		
学習の手引き		①授業への取り組み(出席状況、授業態度、活動への参加姿勢) ②授業作品の内容(制作意図の理解、感性の表現、創意工夫) ③課題などの提出状況 ①～③の状況から総合的に判断して評価する。						
学習の手引き		①美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持つ。 ②意欲的、主体的に活動し、創作活動を楽しむ。 ③基本的な学習マナー(準備と片づけ等)を身につける。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書（発行所）	副教材・発展学習教材（発行所）
芸術	書道Ⅲ	2	文系 選択	一斉	3年時	書Ⅲ（光村図書）	適宜プリント等を配布

目標		書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化について理解を深める。					
学習計画	前期	学習時期	学習内容	学習のねらい		備考	
	前期	4月	○オリエンテーション	・個人の目標に応じた年間スケジュールの作成。			
		5月	○漢字の書の学習	・各書体とも古典の臨書学習を中心に表現を学ぶ。			
		6月	・篆書	・書理論の学習			
		7月	・隷書 ・草書	・鑑賞			
		8月	・行書 ・楷書				
	後期	9月	○漢字の書の創作	・古典に基づき漢字の創作作品を制作する。			
		10月	○仮名の書	・古筆の臨書学習で表現を学ぶ。			
		11月					
		12月	○仮名の書の創作	・古筆に基づいた表現を生かし、創作作品を制作する。			
1月							
	2月	○漢字仮名交じりの書	・題材の選定から表現を工夫し作品を仕上げる。				
	3月	○まとめ					
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
内容		書道の創造的な諸活動を通して、書の表現方法や形式、多様性などについて理解を深めている。書の伝統に基づき、創造的に表現するための技法を身につけている。		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、そのよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫している。また、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え書の美を味わい深く捉えている。		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、内発的な動機に基づいて、多様な観点を持って主体的に書の表現や感想の創造的な活動に取り組もうとしている。	
評価の観点		・書を構成する様々な要素、表現性や表現効果との関わり、表現形式など、書の美の多様性、伝統や諸文化について理解を深めている。 ・書の美の多様性を捉え、創造的に表現し主体的に活用できる技のを身につけている。		・感興や意図に応じて創造的に深く構想し、個性豊かに表現を工夫している。 ・書の伝統と文化について分析的に捉え、役割や効用、現代的意義や普遍的価値などについて深く考えている。 ・書のよさや美しさを感じ、感性を働かせながら、作品や書を深く捉えている。		・主体的に創作活動に取り組み、書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
評価基準		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	
学習の手引き		①授業への取り組み（出席状況、授業態度、活動への参加姿勢） ②授業作品の内容 ③ワークシートなどの記入・提出状況 ①～③の状況から総合的に判断して評価する。					
学習の手引き		1. 基本的な事項についての学習では、教科書を中心にその理解と把握に努める。 2. 表現の学習では、自ら積極的な姿勢で臨み、表現技法の習得に努める。 3. 鑑賞の学習では、作品を直観的かつ分析的に捉えるように心がけ、書美の追求に努める。					

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
外国語	英語 コミュⅢ	文系5 理系4	共通	一斉	3年	Heartening English Communication III (桐原書店)	英単語ターゲット1900 (旺文社)
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	Lesson 1 What Makes Up Your Identity?			アイデンティティについて扱い、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養う。		前期中間考查
	5月	Lesson 2 Predicting Future Technology			未来予想について扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。		
	6月	Lesson 3 The Science of Sleep			睡眠について扱い、豊かな情操を培うとともに、健やかな身体を養うことにつなげる。		
	7月	Lesson 4 Diversity and Inclusion			多様性について扱い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。		前期末考查
	8月	Lesson 5 Protein Crisis			将来のタンパク源について扱い、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。		10月実力考查
	9月	Lesson 6 Different Types of Happiness			幸福度を測定するために用いられている要素について聞く。		
	10月	マーク型問題集			大学入学共通テストに対応できるように、読解力・リスニング力の実践的な演習を行う。		卒業考查
	11月	リスニング問題集			国公立大学の個別学力試験や私立大学の試験に対応できるように、読解力、英作文の力を養成する。		
	12月	個別学力試験用問題演習					
1月							
2月							
3月							
定期考查	出題方針	教科書・授業内で扱った教材から出題する。					
	予定範囲	前期中間	Heartening English Communication III (L.1,2)				
		前期末	Heartening English Communication III (L.3,4,5)				
卒業	Heartening English Communication III (L.6)、オリジナル教材						
実力考查	出題方針	約100点分は副教材や休日課題などから出題し、残り約100点分は応用問題を出題する。(200満点)					
	予定範囲	10月実力	基本文例600、システム英単語5訂版、休日課題等				
1月実力	基本文例600、システム英単語5訂版、休日課題等						
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
評価の観点及びその趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。		
評価基準	定期考查、単元テスト、パフォーマンステスト等		定期考查、単元テスト、パフォーマンステスト等		パフォーマンステスト、小テスト等		
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する						
学習の手引き	予習 新出単語・熟語の意味調べ、重要構文や文法事項の確認、本文の内容把握(和訳を含む) 授業 予習内容の確認、音読練習、重要構文や文法事項の確認、本文読解 復習 授業での学習内容の確認、語彙・構文等の定着、音読練習						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
外国語	論理・表現Ⅲ	2	共通	一斉	2	be English Logic and Expression III Smart (いいずな書店)	英単語ターゲット1900 (旺文社)

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	Lesson 1 The Easiest City to Live in Lesson 2 The Value of Libraries			・住みやすい街について考える 動詞の形を意識する ・図書館の価値について考える 動詞に続く要素を確認する		前期中間考查
	5月	Lesson 3 Improving Our Town Lesson 4 Free Time			・魅力ある町づくりを考える 助動詞を使い分ける ・時間の過ごし方について考える 副詞を適切に使う		
	6月	Lesson 5 New Sports and Entertainment Lesson 6 Enriching Our Lives			・新しいスポーツや娯楽を考える 分詞構文で情報を加える ・人生に必要なものについて考える 比較表現を効果的に使う		
	7月 8月	Lesson 7 A Common Concern Lesson 8 Maintaining the Ecosystem			・人類共通の課題について考える 名詞に<主語+動詞>を続けて説明を加える ・生態系の維持について考える 関係代名詞や分詞を使って名詞に説明を加える		
	9月	Lesson 9 A Sustainable Lifestyle Lesson 10 The Evolving Japanese Workforce			・持続可能なライフスタイルについて考える 前置詞を使って名詞に説明を加える ・変わりゆく日本の労働力のあり方を考える 動詞に不定詞を続ける		10月実力考查
	10月	Lesson 11 Inside Fairtrade			・フェアトレードについて考える 不定詞の意味上の主語を示す		
	11月 12月 1月	マーク型問題集			大学入学共通テストに対応できるように、読解力・リスニング力の実践的な演習を行う。		卒業考查
	1月	リスニング問題集			国公立大学の個別学力試験や私立大学の試験に対応できるように、読解力、英作文の力を養成する。		
	2月 3月	個別学力試験用問題演習					
定期考查	出題方針	教科書から出題する。					
	予定範囲	前期中間	be English Logic and Expression III Smart (L.1,2,3,4)				
		前期末	be English Logic and Expression III Smart (L.5,6,7,8)				
卒業		be English Logic and Expression III Smart (L.9,10,11)					
実力考查	出題方針	約100点分は副教材や休日課題などから出題し、残り約100点分は応用問題を出题する。(200満点)					
	予定範囲	4月実力	基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題				
10月実力	10月実力	基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題					
	観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
評価の観点及びその趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。		
評価基準	定期考查, 単元テスト, パフォーマンステスト等		定期考查, 単元テスト, パフォーマンステスト等		パフォーマンステスト, 小テスト等		
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		
学習の手引き	予習 新出単語・熟語の意味調べ, 重要構文や文法事項の確認, 本文の内容把握(和訳を含む) 授業 予習内容の確認, 音読練習, 重要構文や文法事項の確認, 本文読解 復習 授業での学習内容の確認, 語彙・構文等の定着, 音読練習						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
学校設定科目	探究Ⅲ	1	全	一斉	3	—	探究のトビラのプリント (鹿児島中央高等学校)

目標	「探究Ⅱ」で実施した課題研究の研究を深める。大学や研究機関等と密に連携を行い、研究内容の深化を図る。さまざまな発表会や学会へ積極的に参加し、国内に限らず国際的にも研究発表の場を拡げる。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	研究計画書・予算書確認 ・研究班・担当者打ち合わせ ・研究活動			・各研究班で研究計画を確認し、今年度のスケジュールを立てる。 ・研究班担当者と打ち合わせを行い、研究の進め方について指導・助言を受ける。		
	4月～5月	最終報告会準備 ・ポスター作成 ・口頭発表資料作成			・最終報告会に向け、プレゼンテーションソフトによりポスターを作成し、これまでの研究を振り返る。 ・これまで学んだ発表の流れに沿って、最終報告会に臨む。 ・補足するデータを得るために研究を継続する。 ・研究を様々な発表会に出展し、発表の技術などを高める。		
	6月～	各発表会へ参加					
	7月	最終報告会			・最終報告会を通して、課題研究の振り返りを行う。		レポート提出
	8月	学年間交流会(2年) 研究論文作成			・探究活動のアドバイスをを行うとともに、自分たちが行った探究に興味を持った班に、引継ぎポイント等を説明する。		振り返り作成
	9月	ルーブリック評価 「探究Ⅲ」振り返り(1・2年向け) 学年間交流会			・2年間の探究活動を振り返り、研究のまとめを行う。 ・ルーブリック表を用いて自己評価を行う。 ・探究活動のアドバイスをを行うとともに、自分たちが行った探究に興味を持った班に、引継ぎポイント等を説明する。		
10月～ 11月	研究論文作成 中間報告会参加			・最終報告会の内容を踏まえ、研究論文を完成させる。 ・2学年の中間報告会に参加し、質疑応答・助言を行う。		研究論文提出	
定期考查	出題方針	実施せず					
実力考查	出題方針	実施せず					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・「探究Ⅱ」で実施した課題研究の研究を深めている。		・大学や研究機関等と密に連携し、研究内容の深化をはかっている。 ・協働的な活動において多様な考えを受容・共感し、まとめた内容を効果的に発信・伝達できる能力を身に付けている。		・グループ内での多様な考えを受容・共感し、まとめた内容を効果的に発信・伝達できる能力を身に付けている。 ・さまざまな発表会や学会へ積極的に参加し、国内に限らず国際的にも研究発表の場を拡げている。		
3つの観点についてそれぞれ次のA～Cで評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する		① 授業への取組 ② ポスター・プレゼンテーションの作成 ③ レポート・研究論文の作成		*①～③を総合的に判断する	
学習の手引き	「探究Ⅲ」では、2学年から始まった課題研究をまとめ、いろいろな発表会に出展できるように発表内容を深めます。各研究班の行った研究を次の学年に引き継げるようにまとめ、学年を越えて継続的な取組になるようにします。						